

保育士を目指し、この春より アルバイトをしている高校生の 藤崎太喜君は 10年前のつのぶえの卒園生であり自分の夢の実現のため毎日頑張っています。在園児の頃から 保育園で友達と遊ぶことが大好きで元気いっぱい、やんちゃな可愛い男の子でした。先生達から思わず怒鳴られてしまうほどの 悪戯や喧嘩もしばしばでしたが、仲間たちに大変優しく、特に自分より小さい子ども達への細やかな心づかいは とても微笑ましいもので、皆に愛されている人気者でした。就学した直後に 成田を離れてからも つのぶえに対する思いは変わることなく温かな愛を注ぎ続けてくれました。学校が休みになると ふと思い出されるのか「これから つのぶえに 遊びに行っていていいですか？」と電話がきました。そのあどけない声が いつの間にか低いトーンに変わり、隣に並ぶと見上げるくらい逞しい青年になっても、ちょっぴり照れた様子で 笑顔で訪ねて来てくれました。学校生活を送る中でそれぞれに経験する様々な荒波や高く厚い壁にもぶつかりその度に 太喜君も一生懸命に踏ん張り、乗り越えてきたのだろうなと思います。時折「せんせい！」と電話をくれた時は もしかしたら そんな時だったのかもしれない。でも ここに来て安らいだひと時を過ごすことで、自分を取り戻しまた元の生活へと帰っていったのかもしれない。太喜君の 純粋で優しい心に再会出来る度、私自身も深い喜びと倖せに 満たされていました。そして帰り際少しずつ大きくなっていく背中に向かって「そのままでもいい。がんばれ！」とこれからの歩みに神様の導きがあるよう 祈りをこめ エールを送っていました。私にとって 教え子という存在は 一人ひとり皆 かけがえのない 貴い宝物です。子ども達にとっても このつのぶえが 生きる力をチャージする場所であるならこんなに嬉しいことはありませんし、いつもいつでもいつまでも 皆の心を癒すことができる 小さなオアシスであり ふるさとであり続けたいと願っています。

そんな太喜君が、こうして再びつのぶえに戻り しかも今度は 自分の後輩である園児達のための保育の仕事をしてここでやってみたいと打ち明けられた時には驚きと共に 言葉には出来ない位の 大きな喜びと感謝でいっぱいになりました。毎朝 学校へ登校し、1日勉強をした後に時間外保育の手伝いに保育助手として就労するという、かなりハードな生活です。最初の頃は 来た途端に「疲れた～」を連発しては先生達に叱られたり、毎日の業務日誌の記入に「めんどくさ～」と頭を抱えては「仕事とはそういうもの。責任として記録するのは 当然の義務」と諭されたり。その度に「は～い。ふう～」と 大きなため息をついていました。そんな毎日を通して 社会人としての在り方、仕事の厳しさ、責任などについて太喜君なりに少しずつ理解し 学んできたように思います。時には過ちや失敗に凹んでしまい、疲れきった顔で出勤して来る時もありますが、玄関で 太喜君の姿を見つけた子ども達に「たいきにいちゃ～ん！おかえり～」と迎えられると一瞬にして「ただいま～！」とパッと明るい笑顔になり 元気いっぱいで応える太喜君と皆の姿を 微笑ましく眺めています。お兄ちゃんを 大好きな子ども達。「早くつのぶえのホントの先生になってほしいな。じゃないと僕たち小学生になっちゃうでしょ。もっともっといっぱい遊びたいよ～」と年長組の男の子が私の耳元で ニコニコして言っていました。太喜君の頑張っている姿そのものが子ども達の 最も身近な夢と希望、生きる力となっている事を思わされています。太喜君の学びの道の上に 確かな光を、子ども達一人ひとりの上に豊かな祝福をそして私達が共に生き合う日々互いの成長と溢れる愛を神様にお祈りします。

『 私たちの資格は 神からのものです。 (Ⅱコリント 3:5) 』 (石田 記)